論文タイトル（ゴシック20pt boldなし）

English Title in 18-points Non-Bold Times New Roman

テレワーク大学（ゴシック10.5pt）　在宅 太郎（ゴシック12pt）

Telework University (Times New Roman 10pt)　Taro ZAITAKU (12pt)

テレワーク大学（ゴシック10.5pt）　在宅 二郎（ゴシック12pt）

Telework University (Times New Roman 10pt)　Jiro ZAITAKU (12pt)

要旨：本文書は、日本テレワーク学会研究発表大会予稿原稿の様式について説明しています。要旨本文は、1段組み、MS明朝10ポイント、行間13ポイント、余白左右20mmで記述してください。ただし、「要旨：」のみMSゴシック10ポイントです。原稿は、日本語あるいは英語で記述することができます。英語による原稿の場合には、和文タイトル、和文要旨、和文キーワードは不要です。日本語の場合には、タイトル、要旨、キーワードは、日本語と英語の両方が必要となります。和文要旨は、500字以内、英文要旨は200ワード以内で記述してください。

**Abstract:** This article describes the formatting guide lines for Japan Telework Society (J@TS) conference proceedings. English abstract should have no more than 200 words and must be typed in 10-points non-bold Times New Roman with 13-points of line spacing, single column, and 20mm margin on both sides. However, the heading “Abstract:” should be bold. The paper can be written in either Japanese or English. In case of written in English, Japanese paper tile, abstract and keywords are unnecessary, otherwise title, abstract and keywords should be written in Japanese and English.

キーワード: 5個以内のキーワード（ＭＳ明朝10pt）。見出し「キーワード：」のみMSゴシック10pt。

**Keyword:** within 5 keywords in 10-points Times New Roman. The heading “Keywords” should be bold.

1． 論文の頁の書き方(←MSゴシック11pt,章数字は半角）

予稿集原稿は、このA4ページのフォーマットに従って、本文テキストは、ＭＳ明朝10.5ポイント、行間は固定値14ポイントで記述してください。「ページ設定」で表示される行数とは関係なく、前後左右20mmの余白を確保できる範囲内の行数で書いてください。この文章の上に上書きしていくとうまくいきます。

ただし、そのままでは図表を挿入したとき一部しか表示されないので、図表を挿入する場合は図表の前後部分だけ右クリック→段落→行間で「一行」に変更してから挿入してください。

英文字はTimes New Romanにしてください。このフォーマットはWordテンプレートではなく、フォーマットのサンプルとなる単なる文書ですので、このページを保存し、これをコピーしたページに上書きしながら新原稿を書いて、もしフォーマットがわからなくなれば、このページを参照するのがよいでしょう。なお、学会誌と違い、予稿集はB5サイズに縮小されず、A4のままとなります。

行頭は１文字あけます（改行後は自動であくようにWordが設定されている場合が多い）。タイトル、筆者名、所属、本文は、原則としてこのフォーマットで使用しているフォントスタイル、フォントサイズに従って書いてください。左寄せ、中央揃え、右寄せ、左右上下の余白に関しても同様です。句読点は本原稿にあるように全角の「、」および「。」を使用します。

章番号がある場合には、半角数字を使用してください。

ヘッダーやフッターは入れないでください。実行委員会で予稿集全体として挿入します。

次の章の前に１行あけます（以下）

2． タイトルと筆者名の書き方 (←MSゴシック11pt）

2.1 タイトル（←MSゴシック10.5pt）

タイトルは上記フォーマットにしたがって、できる限り日本語一行、英語一行の順で、中央揃えで書いてください。幅に収まらない場合には、筆者の好みにおいて二行にするか、またはフォントサイズを多少小さくして調整してください。

2.2 筆者名と所属（←MSゴシック10.5pt）

筆者所属および筆者名はできる限り日本語一行、英語一行の順で、右揃えで書いてください。筆者名（日本語）は原則として、氏、名、の両方が２文字以上の場合は、氏と名の間にスペースを入れないでください。ただし筆者が特に希望する場合、特に氏と名の区切りがわかりにくい指名の場合は半角スペースを入れてもかまいません。氏または名のいずれかまたは双方が１文字の場合は、必ず半角スペースを入れてください。

共著の場合の所属および筆者名のレイアウトは原則として縦に並べますが、人数が多い場合は著者に任せます。一般的な学術論文・報告の形式および著者の希望に従って結構ですが、実行委員会で受領後修正する可能性もありますのでその場合はご了承ください。

所属は原則としては、大学・大学院所属教員の場合は大学名のみ（学部や専攻などは記載しない）、会社所属または自営業の場合は会社名また屋号のみ（部門は記載しない）としてください。ただし、もし筆者の事情により、強い要望がある場合には、記入してもかまいませんが、実行委員会との相談の上で修正する可能性もあります。

複数の所属を持つ方のうち、１つが勤務先、１つが社会人学生の場合には、前者が望ましいですが、著者希望により後者であってもかまいません。

会社名に株式会社または有限会社を含む場合は、（株）などと省略せず、株式会社テレワーク、日本株式会社などのように正式社名を記入してください。英語に関しても同様に正式英語社名を記入してください。自身の勤務先の英語名称を勘違いして覚えている方が多いので、記入前に正式な英語名称をご確認ください。

大学または大学院所属学生（社会人学生）の場合は、学生であることが分かるよう、例として、テレワーク大学学術学部４年、テレワーク大学大学院修士課程、テレワーク大学博士後期課程などと記入してください。

個人の場合はなにも書かなくても可とします。また、個人であり所属が特にない場合に限って、資格または職業を所属の位置に書いてもよいものとします（中小企業診断士、会計士、労務評論家、翻訳者、経営コンサルタント、ジャーナリストなど）。

3．図と表の挿入方法（←MSゴシック, 11pt）

図、表は本文中に挿入してください。自然画像である図（＝写真）に関しても同様です。かならず本文中の特定の行にオブジェクトとして挿入してください。（空行をならべてあきスペースを作り、そこに図を貼る方法は避けてください）。本文は２段組みですが、図や表は必要に応じて、その部分のみ１段組みにしてもかまいません。その場合にはMicrosoft Wordのセクション区切り機能を用い、区切ったセクションのあとの段組を１段に変更し、図が終わった位置でセクション区切り機能を再度用い、２段組に戻してください。特に文字を含む図に関してはできる限り文字の大きさが小さくなりすぎないように注意し、必要ならその部分を一段組みにしてください。

予稿集は白黒印刷であるため、カラーの図表はグレースケールに変換してください（MS Wordの機能で変換できます）。この際、大幅に情報が欠落しないように注意してください。また、明るさやコントラストも見やすいように適宜修正してください。自然画像（スキャンした図や写真）の解像度は300dpi程度としてください。必要以上の解像度や大きさの写真をそのまま張ると、論文のファイルサイズが大きくなるので、避けてください。

図表タイトルを図表の上部にあるか下部にあるかは本学会では学会誌も含めて指定していませんので、著者の希望にあわせてください。２段組、１段組のいずれの場合でも、段組の中で、中央揃えで記入してください。

4. 引用方法と参考文献（←MSゴシック, 11pt）

本文中で参考文献を示す際には、「照湧（2010）によると…。」「○○の条件下では××となる（Smith & Jones, 2011）のように、参考文献の著者と発表年を示してください。本文で、参照した全ての文献の詳細は、まとめて文末に列挙してください。その順番は日本語著者名の五十音順、つぎに欧文著者名のアルファベット順とします。参考文献リストは左揃えとし、MS-Wordの脚注機能（本文中の著者名と文末参考文献リストを自動リンクさせる機能）は使用しないでください。

参考文献（←MSゴシック, 11pt）

在宅 勤（2000）「テレワークの将来展望」，日本テレワーク研究，第10巻，第1号，pp.100-110.

照湧 肇（2010）「日本を変えるテレワーク」，ワークイノベーション出版.

Smith, P. & Jones, D. (2011). The Effect of Telecommuting, *Telework Innovation*, Vol.10, No.2, pp.5-6.

Suzuki, Z. (2010). Impact of Social Media on Telework, *International Journal of Telework Research*, Vol.2, No.1, pp.90-98.

Wang, L., Chen, J. & Zhao, Z. (2009). *New Work Style*, Telework University Press.

その他（←MSゴシック, 11pt）

注釈、脚注、謝辞が必要な場合は、筆者が適当と考える形式で記入してください。

〔文書バージョン：1.0，日付：2012年3月15日〕